

2026年2月18日
KK 運営会議事務局

第1回 柏崎刈羽原子力発電所運営会議

1. 日時 : 2026年2月18日(水) 9:00-10:30

2. 場所 : 東京電力 HD 柏崎刈羽原子力発電所 ビジターズハウス

3. 出席者 :

議長 佐藤 敏秀

委員 伊丹 俊彦

委員 太田 雄彦

委員 チャールズ・カスター

委員 菊野 麻子

委員 桑原 保芳

委員 小早川 智明 (東京電力 HD 代表執行役社長)

委員 福田 俊彦 (東京電力 HD 原子力・立地本部長)

委員 柿澤 幸彦 (東京電力 HD 新潟本社代表)

委員 稲垣 武之 (東京電力 HD 柏崎刈羽原子力発電所長)

4. 議事概要 :

(1) 佐藤議長挨拶

- ・ 14年振りの再稼働実現は、東京電力が強い使命感を持って、膨大な量の安全対策工事や新たな文化の構築に取り組んできたことによるもの。引き続き、営業運転の開始、その後の安全・安定運転の継続に向けて、安全を最優先に、一つひとつの作業を確実に進めていただきたい。
- ・ KK 運営会議の2つの主要テーマのうち、「①安全文化、組織文化のモニタリング」については、原子力事業に携わる者一人ひとりの覚悟、電力会社と協力会社の信頼感醸成・総合力発揮が重要。「②新潟県民の皆さまからの信頼感の向上」については、広報・広聴活動の内容が県民の意識を的確に考慮したものになっているのかを評価し、東京電力と県民の皆さまとの間のギャップを埋めていきたい。
- ・ なお、会議の活動の一環として、こうした机上での議論に加えて、発電所の視察や新潟本部による広報・広聴活動の視察等を通じて、社外委員にも現場を肌で感じてもらう機会を設けたい。また、私が現場で確認したこと、感じたこと等を、この会議の場で、委員に適宜お伝えしていきたい。
- ・ 6号機の起動時に生じた不具合対応では、稲垣所長のリーダーシップの下、必要なところでしっかりと立ち止まり、徹底的な調査・確認を行った上で、慎重に次の一步を踏み出している姿勢を確認すること

ができ、大変心強く感じている。安全文化の第一歩は「立ち止まること」だと考えており、これからも、必要の都度、しっかりと勇気を持って立ち止まり、徹底的に考え、行動することにより、安全を最優先とした発電所運営を継続していただきたい。KK 運営会議としても、発電所のそうした姿勢をしっかりと確認していきたい。

(2) 小早川委員挨拶

- ・ 6号機については、議長挨拶にもあった通り、「安全最優先」で営業運転の開始に向けて、ワンチームで一つ一つの作業を着実に進めてまいりたい。
- ・ 活動方針の2つのテーマは、いずれも極めて重要であり、原子力事業に携わる者に求められる覚悟や、協力会社との信頼関係については、KK においてもしっかりと根付かせていく。また、情報発信については、原子炉を起動して設備の健全性確認を進めている6号機の状況を、情報ポータルサイトで毎日公開している。こういった行動が、県民の皆さまが求めているものにお応えできているかなど、評価・ご助言を頂戴し、当社の取り組みに反映したい。
- ・ 今後は、佐藤議長、社外委員の方々と一緒になって、このKK 運営会議の場で議論したことを積極的に取り入れて、発電所のより一層の安全性の向上と、透明性の高い運営に努めていく。

(3) 柏崎刈羽原子力発電所運営会議 運営要綱

- ・ 会議体の設置目的、位置づけ、組織構成、役割・活動内容について制定

(4) 柏崎刈羽原子力発電所運営会議 活動方針

- ・ 議長より、KK 運営会議活動方針の2つの主要テーマ、主な活動内容、活動の年間スケジュール案について説明。
- ・ 活動方針に基づき、発電所における安全を最優先とした取組、新潟本部による対面コミュニケーションや各種媒体を活用した広報・広聴活動を、現場を中心に確認していくことについて、委員間で合意した。

(5) 2026年度KK 業務計画策定の方向性

【業務計画のポイント・現在の取り組み】（説明者：稲垣委員）

- ・ KK では「4つの柱（核物質防護、安全対策工事・主要設備の健全性確認、緊急時等の対応能力、コミュニケーション）」を目指すべき姿として掲げてきた。4つの柱は発電所運営の大前提として、引き続き高いレベルで維持し、その取り組みを行動と実績で地元の皆さまにしっかりと示していく。
- ・ 「改善・改革」に集中できる環境、地元企業と当社が一体となって地域とともに歩む環境を作ることで、現場のパフォーマンスを高め、安定運転を目指していく。
- ・ 6号機を起動するなかでのトラブル対応、起動中断とプラント停止の判断にあたっては、現場の運転員の意見を重視した。

【質疑・意見交換】

- ・ 今回、6号機について様々な報道があったが、不具合を確認して直ちに停止を決断し、それを直ちに公表したことはよかった。東京にいてもこれだけの情報が次々に上がってきたのはこれまでになかったよい状況であり、広報を通じて信頼を得ようとする姿勢が表れていた。
- ・ 起動の中断とプラント停止の判断は運転員の意見を重視したとの説明について、14年ぶりの運転であり、安全対策等の取り組みに係る県民の理解も十分ではないなかで、発電所員にはメンタル面での不安や外部環境による心理的影響はないか、所員のメンタルサポート体制について現状を聞かせていただきたい。
- ・ 起動に臨む若手運転員の士気は高い。所員のメンタルが安定していることは、発電所の総合力を発揮していく場面で重要。
- ・ 次回のKK運営会議会では所員のメンタル面でのサポート等の状況について報告を受けることとする。

(6) 2026年度新潟本部業務計画策定の方向性

【業務計画のポイント・現在の取組】（説明者：柿澤委員）

- ・ 安全・防災対策への取組を「認知」していただき、対話や説明を通じてそれらの「理解」を深めていただき、そして、当社が行動や実績を積み重ねることで「安心を実感」していただけるよう、段階的に信頼感の向上を実現するよう努めていく。
- ・ 地域の皆さまの立場や目線に立って、「情報公開」に努めるとともに、地域の皆さまの声や、本運営会議をはじめとする第三者による助言を踏まえて発電所運営の改善につなげていく。
- ・ さらに、地域との接点を広げ、当社を身近に感じていただくことや、地域が抱える課題解決に積極的に取り組むなど、地域との共生を進めることで、信頼感の向上に繋げる。

【質疑・意見交換】

- ・ 新潟県の皆さまに理解を深めてもらうためには、万が一のことが起こった場合を想定し、平時から東電としてどのような対策をしているのかを伝える広報をより強化していく必要があるのではないか。
- ・ KK情報ポータルサイトの存在自体が知られていない可能性もある。中身が濃く、県民が知りたい情報を発信していくことはもちろんだが、見ていただく機会を増やすような工夫も重要ではないか。
- ・ あまり関心がない、よく分からないという方々に、どういう形で伝えれば理解していただけるか。これから本格的な運転を安定的かつ長期的に継続すれば、それ自体が一番大きい信頼に繋がるだろうと思うが、日々の広報活動の中では、そのやり方も考えていかななくてはいけないのではないか。
- ・ 様々な広告媒体において、ご覧になる方に合わせてコンテンツを選定し、コンテンツに合わせた見せ方の工夫を続け、まずはしっかりと安全最優先の発電所であることを説明していくことが重要。
- ・ 次回のKK運営会議では、現状の広報・広聴活動に係る評価について議論する。

(7) 議長総括

- ・ KK 運営会議のミッションは、1F 事故や核物質防護の事案などの反省と教訓を踏まえて、今まで東京電力が様々な取り組みを通して作り上げてきた文化や仕組みを確認していくこと。
- ・ 東京電力が自ら責任をもって「自律的な改善」に努めることが基本であり、KK 運営会議では業務の根底にある安全最優先の文化や制度が劣化・風化しないようにアドバイス・提言していく。時間軸の長い活動になると思うが、委員が一体となって活動を進めてまいりたい。

以上